



新宿山吹だよりは、保護者の皆さんにも読んでもらって下さい。

芸術に親しむ ～フェルメール～

校長 永浜 裕之

「芸術の秋」にちなみ、17世紀の天才画家「ヨハネス・フェルメール」の作品に出会ったときの話をします。

「見た」と言わずに「出会った」と言ったのは、「メトロポリタン美術館にフェルメールの作品を見に行く」というように行動したわけではなく、偶然「フェルメール」の作品に「出会った」ためです。

大学4年の7月下旬。東京都の教員採用選考を受験し、第1次選考の合格発表がある8月中旬迄の3週間を利用し、私はニューヨーク（以下、NY）へ向かいました。大学生のうちに、大好きなポール・サイモンに会おうと考えたからです。当時は、格安航空券が出回り始めた頃で、IATAの正規運賃では往復約130万円の成田⇄NY間のチケットが、団体パッキングツアー向け航空券をバラ売りした格安航空券を購入することで、「予約変更手数料がかかる」等の制約条件があるものの、安いチケットを手に入れました。

セントラルパーク近くの、シャワーしかない安ホテルを3週間予約したものの、会えるあてはありません。経済的な余裕もなく、1週間後からはマクドナルドでアルバイトを始めました。1ドル約250円の為替レート故、1日働く和日本円で¥20,000位になりました。花のNYに滞在しているにもかかわらず、マクドナルドと安ホテルを往復するだけの日々が続きます。我ながら無計画な自分を責める毎日でしたが、楽しみもありました。

NYのアベニューとストリートは基盤目状に広がっているのですが、マクドナルドからホテルに戻るとき、あみだくじを進むように、ランダムに違う道を歩いて帰るといふ楽しみです。どの街角も同じようできて異なり、様々な店舗が並んでいました。小さな書店やレコード店、ピッツアスタンドやアンティーク店など、飽きることなく街歩きが楽しめました。

ある日のこと。70番街界隈を歩いていると、白亜の低層の建物が目につきました。高層ビルが立ち並ぶマンハッタンの中で、その場所だけがぽっかりと空が空いています。大富豪の邸宅かと思って近づいてみると、かつての大富豪の邸宅であり、今は個人美術館となっている「フリック・コレクション」という建物でした。恐る恐る入館してみると、喧騒のニューヨークとは別世界の、静寂な空間が広がっていました。大理石の階段、邸宅の内部に作られた庭園や、庭園を彩る噴水。庭園や噴水を取り囲むように回廊と部屋があり、そこに絵画がさりげなく飾られています。その中に、百科事典でしか見たことがない、フェルメール作品がさりげなく飾られており、とてつもない衝撃を感じました。

「士官と笑う女」、「中断された音楽の稽古」、「婦人と召使い」の3点です。天才画家「フェルメール」の現存する作品は、研究者によって見解が異なるものの、37点あると言われています。そのうちの3点が、この小さな個人美術館にある奇跡に驚き、私は吸い込まれるように、たちまち魅了されてしまいました。ポール・サイモンに会えそうもないと落胆していた私は、フェルメールに出会ったことで、元気を取り戻していました。

フェルメールの絵は、思っていたよりもずっと小ぶりでした。ルーブルで見たモナリザは、思っていたよりも大きく感じましたが、フェルメールは逆の印象を持ちました。小ぶりでしたが、絵は光にあふれ、日常のさりげない人々の、さりげない場面が、写真で撮影したように描かれていました。明暗の移ろいや、空間の奥行なども正確に表現されているように感じました。一瞬、ブリューゲルの絵を連想しました。17世紀に存在しなかった写真技術を、フェルメールは絵で表現したかったのでは、とも思いました。この経験は、後の私の行動に影響を与えることとなります。

すっかりフェルメールに魅了された私は、その後、世界中を回り、いわゆる「フェルメール巡礼」をはじめることになります。長い年月をかけ、すべてのフェルメール作品を、その所蔵美術館で鑑賞するという夢を成し遂げました。NYをはじめ、エジンバラ、ハーグ、ドレスデン、アムステルダム、ベルリン、ブラウンシュヴァイク、ロンドン、ワシントンDC、ボストン（現在は盗難により展示なし）、ウィーン、パリ、フランクフルト、ダブリンの14都市と、真作か贋作かがはっきりしていないので「フェルメール帰属」となっている作品、「聖プラクセディス」を展示している、東京上野の国立西洋美術館です。東京を含め、合計15都市となります。

東京でも、折に触れ、NYメトロポリタン美術館が所蔵するフェルメール作品を展示する展覧会が開かれます。展覧会に足を運ぶと私は、「ようこそ東京へ」と、絵画に思いをはせるとともに、若い時に過ごした、NYの街並みを思い出します。

学校で学ぶ様々な内容に加え、視野を広げ、教養を高めることは大切です。生徒の皆さんは、興味が沸く本を読み、旅をし、自分を高めてくれる人達とふれあうとともに、「よい音楽を聴き、よい小説を読み、よい映画を観て」、何かを感じてほしいと考えます。

(定時制課程 前期終業集会 校長挨拶より抜粋)

若返りクラゲの発見

～高校生理学研究発表会に参加して～

通信制課程 5組 杉本 凌哉



去る9月24日、千葉大学で開催された第16回高校生理学研究発表会に参加し、口頭発表したので報告します。

全国から約280チームの高校生が集まり、理科学分野について発表した中で、賞をいただくことができました。

私の研究テーマは、自宅でクラゲを飼育して発見した、『若返り』という現象です。飼育中にクラゲが弱ってしまうことは珍しくありません。衰弱したクラゲは、余程のことがない

限り回復が難しいと思われているため、一般的には見捨てられることが多いようです。

しかし私は、全細胞が活動を止めるまでは生きているという考えを持っています。

昨年、ある3種類のクラゲが飼育中に弱ってしまい、1mm位に縮こまってしまったのですが、生きているかもしれないと思い、捨てないでいたところ、そこから若いクラゲ（ポリプ）が生まれてきたのです。

これは「若返り」と呼ばれる現象です。若返りができるクラゲはこれまで世界で5種類しか見つかっていませんでした。今回私は、6種目、7種目、8種目を発見することができました。

発表後の質疑応答では、審査員の方々から、応援の言葉や有益なアドバイスをいただきました。クラゲの若返りメカニズム解明と、ヒトの再生医療への応用が期待できると言っていただきました。

今の私は、飼育と観察しか出来ていないので、遺伝子実験の知識と経験が足りないことが課題です。

今回の発表経験を通して、他の分野と結び付けて研究を発展させるためには、遺伝子実験が重要だと実感しました。

将来、分子生物学を学び、実験設備が整った研究室で思う存分研究したいと思っています。



定時制課程 学校行事予定

10月13日（水）後期授業開始
18日（火）自己探索学習⑤
20日（木）健康講話
11月3日（木）文化の日、学校説明会
4日（金）遠足
10日（木）自己探索学習⑥

通信制課程 学校行事予定

10月22日（土）スクーリング 2-3
20日（木）健康講話
27日（木）都教育委員会
「子供を笑顔にするプロジェクト」
劇団四季公演鑑賞ミュージカル『バケモノの子』
29日（土）スクーリング 2-4
3日（木）文化の日
11月5日（土）スクーリング 2-5